

科目名	介護職員初任者研修
授業形態	講義・演習
開講時期	2年後期
時間数・単位	130時間・4単位

【学習目標】

- ①歯科医療において高齢者歯科や訪問歯科診療が多いため、高齢者に対する理解を深めるとともに介護の知識、技術を習得し高齢者への対応能力を養う
- ②介護や福祉に対する知識、心構え、職業倫理等を学ぶ
- ③基本介護技術演習において技術の基本を習得し要介護者の体験を通じて介護される側の理解を深める。更に訪問介護員の在り方や介護の在り方を学ぶ
- ④施設実習において講義と演習で学習した内容を現場実習で確認し、福祉について理解を深める

【授業計画】

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	多様なサービスの理解	介護保険サービス(居宅、施設)、介護保険外サービス	
2	職務の理解 介護職の仕事内容や働く現場の理解	居宅・施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携	これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる
3-4	介護における尊厳の保持・自立支援 人権と尊厳を支える介護	①人権と尊厳の保持 ②ICF ③QOL ④ノーマライゼーション ⑤虐待防止・身体拘束禁止 ⑥個人の権利を守る制度の概要	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している
5	自立に向けた介護	①自立支援 ②介護予防	
6	介護職の役割、専門性と多職種との連携 介護職の職業倫理	①介護環境の特徴の理解 ②介護の専門性 ③介護に関わる職種 職業倫理(専門職の倫理の意義、介護の倫理、介護職としての社会的責任、プライバシーの保護・尊重)	①介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に基づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している
7	介護の基本 介護における安全の確保とリスクマネジメント 介護職の安全	①介護における安全の確保 ②事故防止、安全対策 ③感染対策 介護職の心身の健康管理(介護職の健康管理が介護の質に影響、ストレスマネジメント、腰痛の予防に関する知識、手洗い・うがいの励行、手洗いの基本、感染症対策)	②介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる
8	介護・福祉サービスの理解と医療との連携 介護保険制度	①介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ②仕組みの基礎的理解 ③制度を支える資源、組織・団体の機能と役割	
9	医療との連携	医行為と介護、訪問看護、施設における看護と介護の役割・連携、リハビリテーションの理念	介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる
10	障害者自立支援制度およびその他制度	①障害者福祉制度の理念 ②障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解 ③個人の権利を守る制度の概要	
11	介護におけるコミュニケーション技術 介護におけるコミュニケーション	①介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ②コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ③利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ④利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められている事を認識し、初任者として最低限の取るべき(取るべきでない)行動例を理解している
12	記録における情報の共有化	①記録における情報の共有化 ②報告 ③コミュニケーションを促す環境	
13	老化の理解 老化に伴うこととからだの変化と日常	①老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ②老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している
14	高齢者と健康	①高齢者の疾病と生活上の留意点 ②高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点	
15	認知症の理解 認知症を取り巻く状況	認知症ケアの理念(パーソンセンタードケア、認知症ケアの視点)	
16	医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している
17	障害の理解 障害の基礎的理解	①障害の概念とICF ②障害者福祉の基本理念	
17	障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎知識	①身体障害 ②知的障害 ③精神障害(高次脳機能障害・発達障害を含む) ④その他の心身の機能障害	障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している
17	家族の心理、かかり支援の理解	家族への支援(障害の理解・障害の受容支援、介護負担の軽減)	

回	授業題目	授業内容	到達目標
18	介護の基本的な考え方	理論に基づく介護、法的根拠に基づく介護	①介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる ②尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する
19	こころとからだのしくみと生活支援技術 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	学習と記憶の基礎知識、感情と意欲の基礎知識、自己概念と生きがい、老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、こころの持ち方が行動に与える影響、からだの状態がこころに与える影響	
20-21	こころとからだのしくみと生活支援技術 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、中枢神経系と体性神経系に関する基礎知識、自律神経と内部器官に関する基礎知識、こころとからだを一体的に捉える、利用者の様子の普段との違いに気づく視点	
22-23	生活と家事	家事と生活の理解、家事援助に関する基礎知識と生活支援	
24-25	快適な居住環境整備と介護	快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法	
26-27	整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	整容に関する基礎知識、整容の支援技術	
28-30	移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援	
31	食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援	
32-34	入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法	
35-36	排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽やかな排泄を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法	
37	睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法	
38	死にゆく人に関するこころとからだのしくみと終末期介護	終末期に関する基礎知識とこころとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うこころの理解、苦痛の少ない死への支援	
39	こころとからだのしくみと生活支援技術 介護過程の基礎的理解	介護過程の目的・意義・展開、介護過程とチームアプローチ	
(39) 40-42	こころとからだのしくみと生活支援技術 総合生活支援技術演習	生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の習得	
43	振り返り	研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきこと、根拠に基づく介護についての要点	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる
	就業への備えと研修終了後における継続的な研修	継続的に学ぶべきこと、研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例を紹介	

【評価方法】

筆記試験

【参考図書等】

介護職員初任者研修課程テキスト1「介護・福祉サービスの理解(第4版)」(日本医療企画)
 介護職員初任者研修課程テキスト2「コミュニケーション技術と老化・認知症・障害の理解(第4版)」(日本医療企画)
 介護職員初任者研修課程テキスト3「こころとからだのしくみと生活支援技術(第4版)」(日本医療企画)

【実務経験】

科目名	行動科学
授業形態	講義
開講時期	2年後期・3年前期
時間数・単位	15時間・1単位
授業担当者	吉嶺 真一郎

【学習目標】

歯科医療の本質と患者の心理を学ぶ

【授業計画】

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	歯科治療全般	歯科衛生士から見た歯科治療の本質	歯科治療とは何かを理解する
2	カリエス治療	カリエス治療と歯科衛生士との関わり	かかりつけ衛生士としてカリエスの患者への対応を理解する
3	歯内治療	根管治療と歯科衛生士との関わり	根管治療を理解し、患者に適切な対応する能力を身につける
4	歯周治療	歯周治療と歯科衛生士との関わり	歯周治療を理解し、患者に適切な対応する能力を身につける
5	小外科治療	外科治療と歯科衛生士との関わり	外科治療を理解し、患者に適切な対応する能力を身につける
6	インプラント治療	インプラント治療と歯科衛生士との関わり	インプラント治療を理解し、患者に適切な対応する能力を身につける
7	インプラント手術の実際	インプラント手術の実際と患者対応	インプラント手術時の患者対応を理解する
8	外科手術の実際	外科手術の実際と患者対応	外科手術時の患者対応を理解する

【評価方法】

レポート

【参考図書等】

「患者を動かす 行動歯科学による歯科恐怖へのアプローチ」Ph.Weinstein他著(クインテッセンス出版)

【実務経験】

本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	音楽
授業形態	ピアノ伴奏によるボイストレーニング、合唱、一般教養
開講時期	1年前期・1年後期
時間数・単位	30時間・1単位
授業担当者	井谷 桃

【学習目標】

音楽の授業を通して自己表現力や一般教養を身につける

【授業計画】

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	①発声 ②基本体操 ③校歌と合唱曲の譜読み	発声、基本体操、「校歌」「ふるさと」の合唱	発声の仕組みを知る、基本姿勢を身につける 「校歌」「ふるさと」の譜読みをする
2	校歌と合唱①	楽語の用語の説明、「校歌」「ふるさと」の合唱	楽譜の意味を理解した上で、「校歌」「ふるさと」2曲を歌えるようになる
3	校歌と合唱②	「校歌」「ふるさと」の合唱	合唱のハーモニーを楽しみながら、「校歌」を暗譜、「ふるさと」を仕上げ
4	混声合唱の仕上げ	校歌を最後まで暗譜で歌えるようになる グループ別発表	グループ別に発表し、合唱の多彩なハーモニーを味わいながら大きなスケールで歌う
5	モーツァルトの生涯①	映画「アマデウス」を鑑賞	モーツァルトの生涯について、説明を交えながら考える
6	モーツァルトの生涯②	映画「アマデウス」を鑑賞	モーツァルトの生涯について、説明を交えながら考える
7	クラシック音楽史	クラシック音楽の歴史	「クラシック音楽」とは、一般教養としておおまかな歴史を知る
8	My Favorite Songs①	自分の好きなアーティストや曲を研究発表する	自分の好きなアーティスト、曲の内容を理解し掘り下げ、皆の前でプレゼンする
9	My Favorite Songs②	自分の好きなアーティストや曲を研究発表する	自分の好きなアーティスト、曲の内容を理解し掘り下げ、皆の前でプレゼンする
10	ポピュラー音楽	「King Of Pop」マイケルジャクソンを取り上げる	ポップ界の王マイケルジャクソンの生涯と作品の魅力を知る
11	舞台芸術について	それぞれの舞台芸術の違いについて	オペラ・オペレッタ・ミュージカルの代表的な作品を鑑賞し、違いと魅力を学ぶ
12	声の世界①世界の歌	ドイツ語の「野ばら」、イタリア語の「O sole mio」比較	外国の歌2曲を比較しながら原語で歌えるようになる
13	声の世界②「Amazing Grace」 グループアンサンブル	「Amazing Grace」を小編成のグループで歌う	小編成のグループに分かれ、ハーモニーが作れるようになる
14	筆記試験実施、 グループアンサンブル	筆記試験、グループアンサンブル	筆記試験、実技試験に向けての練習
15	試験実施②	筆記試験結果返却と訂正、グループ別実技発表の実施	一般教養としての音楽の知識を深め、グループで協力すること、自分自身の表現として発表し、1年を締めくくる

【評価方法】

レポート提出、グループ発表、筆記試験

【参考図書等】

配布物プリント(楽譜等)、CD、映画鑑賞

【実務経験】

科目名	体育
授業形態	講義・実技
開講時期	1年前期・1年後期
時間数・単位	40時間・1単位(1年次20時間、2年次10時間、3年次10時間)
授業担当者	畠中 和子

【学習目標】

自主的・積極的に運動習慣を身につける

【授業計画】

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	現状の自分の体の状態を知る	正しい姿勢の把握と体組成の測定→チェックシートの作成	正しい姿勢方法を把握し、運動の習慣化
2	体力作り運動①	ダイナミックストレッチ→有酸素運動→筋トレ→リラクゼーション	正しい体の動かし方でラクに動ける方法を習得する
3	体力作り運動②	ダイナミックストレッチ→有酸素運動→コアトレ→リラクゼーション	正しい体の動かし方でラクに動ける方法を習得する
4	スポーツ競技①	手具を使ってスポーツ競技	運動で血液・リンパ液の流れを整える事を体感する
5	スポーツ競技②	手具を使ってスポーツ競技	運動の楽しさとチームワークの大切さを身につける
6	スポーツ競技③	手具を使ってスポーツ競技	球技大会を意識する
7	季節に応じた運動方法①	各症状に対する運動方法・体幹とコア・筋肉の働きについて	運動方法を体感する
8	季節に応じた運動方法②	身体の冷え対策バージョン(サーキットトレーニング)	効果的な脂肪燃焼の実践
9	運動理論	確認テスト(筆記と3種目の実技)	運動と身体の仕組みについての習得
10	体力作り運動③	体組成の測定・セルフコンディショニングとレクリエーション	2年次へ繋ぐ・全員で楽しむ運動

【評価方法】

筆記と実技試験

【参考図書等】

「正しい体幹トレーニング」有吉与志恵著

【実務経験】

科目名	体育
授業形態	講義・運動
開講時期	2年前期
時間数・単位	40時間・1単位(1年次20時間、2年次10時間、3年次10時間)
授業担当者	畠中 和子

【学習目標】

安全な方法で体力作りをしよう

【授業計画】

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	健康作りの為の運動方法	ダイナミックストレッチ⇒有酸素運動⇒リラクゼーション	運動方法の把握
		体組成の測定⇒チェックシートの作成	1年時と比較
2	スポーツ競技①	手具を使ってスポーツ競技	球技大会を意識する
3	スポーツ競技②	手具を使ってスポーツ競技	テクニックの向上とチームワーク
4	健康作りと体力作り	コアトレとフットコンディショニング	疲労回復の方法
5	健康作りと体力作り	セルフコンディショニングとレクリエーション	運動の習慣化

【評価方法】

出席状況、受講態度で評価

【実務経験】

科目名	体育
授業形態	講義・運動
開講時期	3年前期
時間数・単位	40時間・1単位(1年次20時間、2年次10時間、3年次10時間)
授業担当者	畠中 和子

【学習目標】
健康管理の方法について学ぶ

【授業計画】

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	健康づくりの為の運動方法	体組成の測定・ダイナミックストレッチ・有酸素運動・リラクゼーション	運動習慣の見直し
2	スポーツ競技①	手具を使つてのスポーツ競技	運動の楽しさとチームワークの大切さを身につける
3	スポーツ競技②	手具を使つてのスポーツ競技	球技大会を意識したチームワークを培う
4	スポーツ競技③	手具を使つてのスポーツ競技	球技大会を意識したチームワークを培う
5	健康作りと体力作り	セルフコンディショニングとレクリエーション	1人でできる運動方法と全員で楽しむ運動

【評価方法】
出席状況、受講態度で評価

【実務経験】